

平成 19 年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 真柳 佳昭 先生

真柳佳昭先生は、1963 年東京大学医学部を卒業され、同大学付属病院にてインターンを終了された後、1964 年同大学脳神経外科学教室（主任教授 佐野圭司）に入局され、同時に同大学大学院に入学され、「てんかんの直流電位」神経研究の進歩 12：611-623,1968 で学位を取得されました。1968 年大学院卒業後は、東京大学脳神経外科学講座に助手として 1972 年まで奉職され、この間 1970 年から 1972 年まで、アメリカの Johns Hopkins 大学 AE Walker 教授に師事され、側頭葉てんかんの実験的研究に従事されました (Mayanagi Y, Walker AE. Experimental temporal lobe epilepsy. Brain 1974; 97:423-446)。引き続きドイツに渡り、Berlin 自由大学 Steglitz 病院 (W Umbach 教授) で 1975 年まで講師・病棟医長を務められ、定位脳手術の研鑽を積まれました。帰国後は東京警察病院脳神経外科部長、1999 年から 2004 年までは同病院副院長として職務に専念され、この間、東京大学、独協医科大学、岡山大学の兼任講師を務めておられます。

先生は、日本てんかん外科学会の前身であるペンフィールド記念懇話会の設立に関わり、その後もこの学会の運営・発展にご尽力され、第 9 回会長、また 1998 年から 2004 年までは事務局長を務められ、今日の日本てんかん外科学会の礎を築かれました。てんかん外科における先生のご専門は多岐にわたっていますが、特に側頭葉てんかんについては、本邦で始めて慢性頭蓋内脳波記録を軌道に乗せ、手術手技では unco-amygdalo-hippocampectomy を創始され、今日でもこの領域の第一人者であり、基礎的な学識に基づく多数の論文発表、また学術講演を通して、医療としての外科治療の正しい発展に寄与されました。また、多くの編著本、訳本がありますが、その中でも、真柳・石島（監修）「てんかんの外科」はてんかん外科の基礎・臨床テキストとして高く評価されています。

日本てんかん学会との関わりも深く、1990 年より 4 期 16 年にわたって理事を務められ、この間、国際担当理事、第 26 回会長、ILAE の第一副会長・地域問題特別委員・選挙管理委員、AOEO の理事を歴任され、国際関係の窓口として日本てんかん学会の発展にご尽力されました。

前) 静岡てんかん・神経医療センター診療部長
三原忠紘